

2021・11・29

11/29 朝日

膨張に歯止めかけねば

防衛費補正予算

政府が「十六日」閣議決定した
「二〇二二年度補正予算案」で、防衛
費は一千七百一十八億円と過去最大
となつた。補正いじりの範囲の
規模だ。既に「次年度内閣改定」増
額が続々防衛費を、補正予算案に
積み増せば、膨張に歯止めがかけ
られないから。政策を決めるだい。
補正予算案だけ、通常三初步予算
上盛り込む防衛費の新規購入
が計上された。哨戒機や輸送機、
ミサイル、機密・免密の取得など
で計一千八百一十八億円以上だ。
防衛省は中国や北朝鮮の軍備増
強を警戒し、南朝鮮防衛機関とのカ
イル対処能力の強化を急ぐ必要が
あると説明する。

しかし、この政策は補正予算とい
う「既に実現となった経費」(既に
に既にと規定する)、中期の軍備増
強は遠近、突然始まらなかったりでは
ない。補正予算に記載した機密機品
購入がなぜ実現か、防衛省は合理的
的な説明がで難いのだ。

補正予算も、通常予算が四枚
にじて新たに五枚を超える。
防衛政策は、安全保険構造の変
化に応じて、防衛費の急拡大は
あひこじか。防衛費の急拡大は
日本国事大國化の発想もありとの
説法を随分説いてる。逆に、原松綱
弁護士は「防衛予算のシンジ
ケート」を唱へた。

防衛費増額の背景は、同国国防
費が年々〇・〇%以上と増加
かねて来たが、米国との摩擦の配
慮があるのが問題視される。
政府は、「二〇二一年度補正予算」
二年度当初予算を「本の」「防衛力
強化加速パッケージ」と位置付け
る。補正予算に記載した機密機品
新規購入は、二〇二一年度補正予算
案のふた段階計算を前提とした
ものである。

当初予算案が成立、衆院両院
で約二万四千億円削減されたが、補正
予算案の場合、衆院をわせて、少數
田間!とすがな。本来、時間をか
けて慎重に審議すべき是防衛費補
正予算案を、審議時間が限られる
場合、予算案は計上される手筋は本
道しかない、これが専門だ。